

第1回 カサブランカ 地域連携推進会議 議事録（令和7年度）

1. 会議概要

日時：2026年03月11日（水）10:00~12:00

場所：カサブランカ市川中山II

出席者：

ご利用者様：ご利用者様代表（1名）

ご家族：ご利用者様ご家族代表（1名）

地域の関係者様：相談支援専門員（1名）、社会福祉協議会 担当者（1名）、病院相談員（1名）

地域住民・関係機関等：自治会長（1名）、多機能型事業所（就労支援等）管理者（1名）、理学療法士/サービス付高齢者住宅施設責任者（1名）

事業者側：代表者・管理者、サービス管理責任者（2名）

会議の目的・主旨：グループホームに『外部の目』を入れて施設の透明性を高め、地域に開かれたより良い支援をつくること。構成員と施設職員が双方向で率直に意見交換し、お互いに気付きを得て、より良いサービスの提供に繋げる機会とすること。

2. カサブランカからの報告事項

① 施設等・地域の連携に関すること

- 過去に撤退したホームにおいて、建物の老朽化や居室の散らかり、敷地内の不衛生な環境、喫煙マナーなどに関する問題があり、地域から苦情が寄せられた経緯があった。運営体制変更後、迅速に改善を図った。これらの反省を踏まえ、清掃のマニュアル作成とルール化や、清掃業者の導入などに取り組んでいる。
- 地域との連携に関し、避難訓練や防災訓練、自治会の夜間見回りへの参加、国勢調査への対応など、複数拠点にて取り組み、地域の方と挨拶をするきっかけを作り、地域との関係構築とセーフティネットの強化に努めている。

② 施設等やサービスの透明性・質の確保

- 収支は成立しているものの、新たなホームの立ち上げや拠点の撤退により直近の支出は多い状況にある。
- 本年度よりプロの清掃業者を導入し、備品等も極端な節約をせず新品を購入して建物を衛生的に長持ちさせる方向へ方針を転換した。
- BCP（業務継続計画）に関して、外部システムを活用した法令遵守の仕組みを整えている。自然災害や感染症に関しては、地域の防災訓練や避難訓練、ホームでの感染キット着用の練習など、職員と利用者交え実施している。

③ 利用者の権利擁護と支援の状況

- 過去に一部の利用者に対して不適切なルール設定（罰的な意味合いを持つ対応）が見

られたが、現責任者の着任後に即刻ルールの変更と謝罪を行い、是正した。罰的な対応に関し、当職員に悪気がなかったことから教育の不足を感じ、研修の充実、独自マニュアル（「心得」）の整備、統括サービス管理責任者の設置による「目を行き届かせる体制」への変更を進めている。

- 業務の効率化と利用者・職員双方の保護、および利用者と向き合う時間の創出を目的として、AIを活用した録音および記録作成の自動化を検討している。

3. 構成員との意見交換・議論（主な内容）

- 見守りとカメラ設置について：とくに重度の利用者の居るホームなど、コミュニケーションが困難な方をお守りするため、また事故か自傷かの判別をつけるために、プライバシーに配慮した上でのカメラやセンサーの導入は検討の余地があるとの意見が挙げられた。また、ご家族からは、自分から不満を発信しないタイプの利用者に対しては、監視ではなく見守りの意味で有効ではないかとの声もあった。
- 関係機関との連携について：退院支援や地域生活の継続において、金銭管理や服薬管理がハードルになるケースがある。グループホーム、社会福祉協議会、医療機関、相談支援専門員などが役割を分担し、お互いの「三遊間」を埋めるような連携をとることが生活を支える上で非常に重要であることが確認された。
- ご家族とのコミュニケーションについて：ご家族から、共有スペースの利用（電気の消し忘れや窓の開閉など）に関する細かな不安が共有された。これに対し相談支援専門員から、些細なことでもグループホームや相談支援専門員に事実確認や理由の説明を求めることで、双方が納得し信頼関係を維持できるとの助言があった。
- 地域への溶け込み方について（自治会より）：地域住民が最もストレスに感じるのは「衛生環境を脅かすもの（ゴミ出しのルール違反など）」と「安全を脅かすもの」であるとの指摘があった。最初から「グループホームである」と声高に主張して理解を求めるよりも、地道に地域のルールを守り、地域の行事に参加して自然に溶け込んでいく方が、結果として地域に受け入れられやすいとのアドバイスを受けた。
- 障害に対するマインドセット：特別なものを扱っていると身構えるのではなく、個人の特性として捉え、一人の人間として関わることで、支援者側も利用者側も楽になるという意識の持ち方が共有された。

4. 地域連携推進会議としての今後の取り組み

- 「地域の方とグループホームとの自然な生活の実現」を目指す。
- 行為だけでなく環境面も含めて虐待や不適切なケアのない状態を作り、地域の不安や不審を取り除く。
- ゴミ出しなどの地域のルールを徹底し、自治会などのキーパーソンと意見交換を行いながら、手探りで地域とのより良い共生の形を模索していく。

【事業所見学の報告と住環境に関する意見交換】

数名の構成員により、当法人が運営する全 7 か所のグループホームの見学を実施した。そ

の結果について、以下の通り報告と意見交換を行った。

- **構成員からの評価・意見：** 見学を実施した構成員より、「どのホームも清掃が行き届いており、生活空間がきれいに保たれている」との評価をいただいた。一方で、一部のホームにおいて建物の老朽化（床の沈みや抜け等）や、設備の劣化箇所についてご指摘をいただいた。
- **事業所からの回答と対応方針：** ご指摘いただいた老朽化・劣化箇所については、現在、管理会社および物件オーナーと密に連絡を取り合っている旨を説明した。入居者様の安全面を第一に考え、優先順位をつけながら、自社またはオーナー負担での修繕対応を順次進めていることを報告し、構成員より了承を得た。当日見学いただけただけの共用部や一部居室以外で、改善すべき部屋もあり、改善に取り組んでいる。